

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2024年4月11日

事業ID:2023011803

事業名:愛知県稲沢市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営(1年目)

団体名:一般社団法人教育サポート協会

代表者名:千葉 格 印

TEL:0587-89-0134

事業完了日:2024年3月31日

■契約時

事業費総額	:	5,220,000 円
自己負担額	:	0 円
助成金額	:	5,220,000 円

■箇所は「収支計算書」より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	3,892,523 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	523 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	3,892,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	1,328,000 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

【事業内容】 1. 愛知県稲沢市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営 (1)期間:2023年7月~2024年3月(週3日以上、14時30分~19時まで開所) (2)場所:愛知県稲沢市 (3)対象:20名(家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年中心) (4)内容:「子ども第三の居場所」をつくり、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。自然・農業体験、アート、モノづくり、金融教育、英会話、プログラミング、雅楽など子どもに多様な体験を提供する。
--

(2)事業完了時の事業内容(実績)

【事業内容】 1. 愛知県稲沢市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営 (1)期間:2023年7月~2024年3月(水・木・金15時~19時まで開所、保護者の都合がつく土日と第三日曜日の午前中) (2)場所:愛知県稲沢市 (3)対象:13名(家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年3名、その他10名) (4)内容:「子ども第三の居場所」をつくり、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完。自然・農業体験、アート、歯磨き教室、モノづくり、金融教育、英会話、プログラミング、稲沢のはだかまつりを通して文化・歴史を継承させるなど子どもや保護者に多様な体験を提供した。



(3)成功したこととその要因

不登校の回避、内向的児童に積極性が芽生えた。 子ども、保護者、スタッフ及び小学校との連携が密に取れたことが要因だと考える。
--

(4)失敗したこととその要因

目標数の児童が確保できなかった。広報活動不足だと推測する。
雅楽体験の未実施。日程調整が困難であったため。

(5)事業内容詳細

来場児童へのマナー指導、食事作り、学習支援、保護者からの相談対応を日頃から実施した他、以下のイベントを開催。
9月：児童英語、歯磨き、琥珀糖作り各教室
10月：児童英語、金融リテラシー各教室
11月：児童英語教室
12月：児童英語、マフィン作り、しめ縄作り各教室
1月：児童英語、金融リテラシー、稲沢市の伝統行事(はだか祭り)各教室
2月：金融リテラシー教室(子どもバザー)
3月：昆虫調べ、書き方、話し方、コミュニケーション各教室

2.契約時事業目標の達成状況：



(1)助成契約書記載の目標

【目標】
・2024年3月31日までにの一日平均利用児童数を15名にする
・ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供
・子どもの「経験の不足」を解消するような定期的なイベントを事業期間内に月1回以上実施する
1年後に在籍児童を15～20名にする。
1. 行政、学校との関係構築
市長、子育て支援課との連携・情報交換を進めると共に教育委員会との連携を深めていく。近隣の小学校校長や学年主任との情報交換を定期的実施。⇒事例検討会 年3回実施している子育て支援課と社協との会議
小学
校訪問で校長、学年主任、担任との情報交換会の実施。⇒在籍児童や対象児童の情報交換を行い支援・募集に繋げる。(参加者や訪問時にヒアリング)*施設長や補佐以外でも気軽に連絡できるように関係を深める。
2. 地域住民との交流イベント
⇒子ども食堂を通して近隣の方との連携も深まったが、チラシ配布や相談会実施などで更に近隣の方たちとの連携を深めていく。⇒ボランティアで夕食の調理を手伝って頂けるようになったが、交流イベントにより更に協力の輪を広げると共に募集に繋げる。(参加者へのアンケート調査)*新規参加家族は30%以上。
3. 家族向け小冊子の作成・配布
・配布協力先:20ヶ所以上
・冊子による相談件数、イベント来場件数 50 件以上

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	458	文字数チェック	OK
1日平均利用児童数を15名にすることはできず、結果13名に留まる。 ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供はできた。 子どもの「経験の不足」を解消するような定期的なイベントを事業期間内に月1回以上実施できた。 近隣の小学校校長や学年主任との情報交換を定期的実施することができた。但し、日程調整が難しく全体での事例検討会は開催まで至らず、各所個々に情報交換を行った。尚、スタッフ全員が各所と緊密な連携が取れるよう関係を深めることができた。 子ども食堂を通して近隣の方との連携が深まり、ホームページでの告知や相談会・保護者会実施などで更に近隣の方たちとの連携を深めた。新規ボランティアの方が学習支援や夕食の調理を手伝って頂けるようになり、交流イベントにより更に協力の輪を広げると共に現在も募集に繋げている。新規参加家族も増加した。 家族向け小冊子の作成・配布はできず、初年度であったということもあり、日々発生する子どもや保護者の問題解決に時間を割くことに力を注いだためと思われる。			

3. 事業実施によって得られた成果

①開所前は小・中・高生が数名の来場であったが、開所した7月からは各所との連携もあり少しずつ来場児童が増加した。最終的に目標とする15名に達することはできなかったものの、平均して13名の子どもたちや保護者の来場を得ることができた。尚、稲沢市子育て支援課や稲沢市社協の協力もあり、対象とする子どもやひとり親家庭の親御さんが来場する機会が特に増えたようである。中には、学校との関係に悩む子や家庭での悩み事相談が増えたが、当法人のスタッフ及び理事だけでなく、地域のボランティア、NPO法人、社会福祉法人の協力をいただき対処することができた。

②また、開所前は頻繁にイベントを実施することができなかったが、開所後は財団の支援もあり、平均して月1回以上はイベントを実施して各家庭や多世代との交流の機会を設けることができた。

4. 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

①初年度ということもあり、講師との連携が上手くいかなかったようである。今後は事前に徹底した講師会議を行うこととした。

②予算管理が甘かったようである。今後はスタッフ間の連携を徹底し、1週間ごとに確認作業を行っていきたい。

③寄付金募集と自主事業展開に力を注げられなかった。今後はホームページを活用したり、企業訪問で寄付金募集を行っていく。また、将来に向けての自主事業展開を考察する。

④一部の子どもの生活マナー。保護者を含めた勉強会を実施する。

5. 事業成果物

(1) 助成契約書記載の成果物名称

完了報告書

(2) 事業完了時の成果物名称

完了報告書



(3) 未作成となった要因

(4) 成果物を登録したウェブサイトのURL

https://nippon.zaidan.info/nf_lib/nf_libServlet/nf_lib1050?np=1019&jigyo_id=0000098638